

2019年度FDシンポジウム

教育学研究科教科教育専攻「教科指導力高度化演習」公開報告会へ参加して

家政教育講座・竹下浩子

1. 報告会の概要

2020年1月14日（火）午前8:30から10:00まで教育学部1号館4階401教室にて、教育学研究科教科教育専攻「教科指導力高度化演習」公開報告会が開催された。この報告会は教育学研究科教科教育専攻の大学院生が実際の教育現場をフィールドに研究した内容について報告するもので、2週に分けて行われた。第1回目の発表では、家政教育領域、保健体育教育領域、社会科教育領域の3教育領域の大学院生がパワーポイントを用いて発表を行い、発表後にそれについての質疑応答がおこなわれた。予定があり、家政教育領域、保健体育教育領域の報告のみを聞くことができた。

2. 報告内容

最初に発表した家政教育領域の発表は、2名が発表し、小学校での実践と高等学校家庭科における実践の報告であった。

小学校の授業実践では、附属小学校での土曜学習を通して、環境に配慮した買い物体験と調理実習を実践的・体験的活動から学ぶ学習であった。家庭科では、実践的・体験的授業について、調理実習や被服製作などを通して普段から行っているが、買い物体験をする機会は少なく、学校では行われないのが現状である。そこで、買物を疑似体験させた後で、調理実習を行うことで、学んだ知識が調理実習にすぐに活かされていた。

高等学校の授業実践では、高校生が興

味・関心を持ちにくい栄養素の教材開発に取り組み、松山工業高校での取り組み実践について報告していた。視覚的教材の工夫などにより、生徒の知識理解が深まっていることがわかった。さらにこれらが実践にどう結びつくかについて、考える必要があることがわかった。

2番目の保健体育教育領域は、2名の院生のグループでの発表であった。特別支援学校の子どもたちとのかかわりが少なかった保健体育教育の院生らが、視覚的支援の工夫や、様々な場面での子どもたちの実態把握を行った結果、障がい者の豊かなスポーツライフを実現する子どもたちの資質・能力を育成するだけではなく、将来、特別支援学校で指導にかかわるうえで、指導者である院生自身の不安が少なくなったと感じており、指導者の成長も感じ取れる内容だった。発表に指導前と後の子ども様子をビデオで確認することで、子どもたちの技術力の向上を客観的に見ることができた。

3. 地域社会を核とした教育と研究のつながり

家政教育領域、保健体育教育領域の実践報告だけでは、地域社会を核とした教育と研究のつながりはあまり見られなかった。しかし、地域社会との連携は、地域の課題、学校の課題解決に向けて、何かしらの方向性を示してくれることは確かである。どのような連携ができるか、それぞれに考えていく必要がある。